

# 茨城県英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

本県では、2018年度から3年間、小学校外国語教育の早期化・教科化に取り組むため、小学校英語教育支援事業を実施した。

この事業では、小学校から実践マネジメント校(30校)とサポート校(103校)を指定し、県指導主事による訪問指導を通して、教科化に向けた指導方法の研究や、学区内中学校教員の小学校授業参観及び小学校教員との協議、域内の中・高の英語教育推進リーダーによる小学校への校内研修支援を進めるとともに、2019年度からは全小学校での教科化を先行実施し、小中学校教員を対象に、指導力向上に向けた悉皆研修を行ってきた。

中学校・高等学校においては、生徒の発信力を向上させるため、各種指導力向上研修のほか、県教育研究会英語部会や市町村教育委員会と連携した各事業を通して、小学校から高校までの外国語科の円滑な指導の接続を図り、単元を通して5領域が育成できる授業改善に向けた取組を進めている。

これらの取組をさらに推進するため、令和4年度の県学校教育指導方針において、以下のとおり指導の重点化を図る。

- (小学校) 目標と指導と評価の一体化を図り、互いの考えや気持ちなどを伝え合う力を育成する授業改善
- (中学校) 目標と指導と評価の一体化を図り、発信力を育成する授業改善
- (小中共通) 小中連携の推進(情報交換⇒交流⇒指導方法の連携)
- (高等学校) 4技能5領域の総合的な育成と発信力の更なる育成

なお、「令和3年度公立小学校、中学校および高等学校における英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、本県では、以下の目標設定と管理を行うこととする。

① 国が求める英語力(中3:CEFR A1以上、高3:CEFR A2以上)を有する生徒の割合

【現状】中学校では53.9%(2019年比+5.6)と前回調査より上回った一方で、高等学校では38.3%(2019年比-6.3)と前回調査を下回った。

【課題】付けたい力を明確にした指導とその指導の成果を的確に測るアセスメントテストの実施が十分でない。

【目標及び数値指標】

CEFR A1以上相当の英語力をもつ生徒の割合(%)

中学校	年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	目標値	48.6	54.0	57.2	60.4	63.6
	実績	41.5	48.3		53.9	

CEFR A2以上相当の英語力をもつ生徒の割合(%)

高等学校	年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	目標値	36.2	41.1	49.6	54.4	59.2
	実績	41.0	44.6		38.3	

- 【方策】
- ・中学校では、教員が生徒の英語力を客観的に把握するため、2020年度から「中学生の英語発信力向上事業」において、年1回、英検IBA(RL版)のアセスメントテストの機会を全公立中学校と希望する高校に提供する。
  - ・公立中学2年生全員に、英検IBA(RLWS版)を年1回実施する。
  - ・生徒の英語力向上に資する外部検定への受験を一層奨励するため、約半数の自治体が受験料補助事業による支援を行っていることから、他の自治体へも支援策を呼び掛けていく。
  - ・高等学校では、実践的な英語コミュニケーションの機会を充実させるために、外国語指導助手(ALT)を増員(2019:40人→2020:53人→2021:59人)し、重点校には複数名のALTを配置するなどして、生徒の英語力の向上を図っていく。

② 国が求める英語力(CEFR B2以上)を有する英語担当教員の割合

【現状】高等学校においては割合が着実に上昇し、70%を大きく超えている一方で、中学校では茨城県教育委員会

28.1% (前回比-0.7) と低く、依然として目標値と大きな隔たりがある。

【課題】 教員の英語力が言語活動の質を高め、生徒の英語力向上につながるという意識が弱い。

【目標及び数値指標】

CEFR B2 取得率の割合 (%)

校種	年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
中学校	目標値	55.0	57.0	60.0	60.0	60.0
	実績値	28.8	28.8		28.1	
高等学校	目標値	62.0	73.2	75.0	75.0	75.0
	実績値	66.0	77.0		74.3	

【方策】 ・県では、外部検定試験団体の教員特別料金に加え、2019 年度から外部検定試験の受験料を半額補助しており、未取得教員に対して積極的な受験を呼びかける。

- ・教員も生徒とともに学び続ける重要性を学校訪問や各種研修会で伝えることで、教員の意識改善を促し、国が求める英語力を有する教員の増加を目指す。
- ・授業の中で実践的な英語コミュニケーションの機会を増やすため、2020 年度より、採用に関して「スペシャリストを対象とした特別選考」を実施し、ネイティブや英語力の高い日本人に特別免許状を付与して教員として採用している。ネイティブ等の教員を義務教育課では 15 名、高校教育課では 6 名採用した。
- ・今後は、全市町村への配置を目指すとともに、域内の研修講師等として効果的な活用を図ることで、教員の英語指導力向上に向けた指導体制づくりを強化していく。
- ・教員養成系大学に対して、志願者が大学在学中に CEFR B2 レベル以上の英語力を取得するように継続して働きかけていく。

③ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合

【現状】 中学校における言語活動時間の割合が、前回調査より 10 ポイント低下している。依然として言語活動への理解不足による教師主導型の授業が散見される。

【課題】 表現や語句を繰り返し使うためだけの練習に時間を費やし、目的、場面、状況を明確にした質の高い言語活動が十分でない。

【目標及び数値指標】

生徒の授業における言語活動時間の割合 (%)

中学校	年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
	目標値	90.0	95.0	100	100	100
	実績値	78.0	83.1		73.1	

【方策】 ・中学校では、重点項目として、「授業中、おおむね、または半分以上言語活動を行っている割合」を 2022 年度に 100% を目標値として設定し、達成に向けて、中学・高校が連携して、「英語プレゼンテーションフォーラム」(課題解決的なテーマを基に生徒の意見や考えを英語で表現し、聞いた内容を生徒同士がやり取りすることを目的とした大会) を実施している。

④ 外国語指導助手 (ALT) を活用した時数の割合

【現状】 高等学校では、実践的な英語コミュニケーションの機会を充実させるために、外国語指導助手 (ALT) を増員 (2019 : 40 人→2020 : 53 人→2021 : 59 人) し、重点校には複数名の ALT を配置するなどして、生徒の英語力の向上を図っている。

【課題】 新型コロナウイルス感染拡大予防による渡航制限のため、JET-ALT の配置が十分でない。

【目標及び数値指標】

「ALT とコミュニケーションを図ろうとする生徒の意欲が高まったと思う」と答えた学校の割合 (%)

高等学校	年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
	目標値	100	100	100	100	100
	実績値	100	100		100	

- 【方策】・各校での活用にとどまらず、県の事業（「高校生国連グローバルセミナー」「英語ダイバート大会」等）において、ALTをラーニングメンターやジャッジ等で活用することで、各校に対してALTの多様な活用方法を周知していく。
- ・高校教育課内に、ALT相談員に加えて、2021年度からは国際交流員（CIR）を配置し、CIRが中心となり、ALTの優れた授業実践等を共有できるようなシステムを作り、生徒が主体となって発信力を高めていけるような授業改善を推進していく。

⑤ 小学校と連携している中学校の割合

【現状】 小学校での教科化を2019年度に全県で先行実施を行った。域内の小学校教員と相互理解を深める機会などを作ってきたが、新型コロナウイルスによる相互参観等の中止等により、小学校と連携している中学校の割合は、64.9%（前回比-18.8）と減少している。

- 【課題】・学習到達目標の設定だけでなく、公表及び達成状況の把握に課題があることから、目標と指導と評価の改善に役立てることができていない。
- ・「英語を用いて何ができるようになるか」を生徒に明確に示し、見通しをもって主体的に学習に取り組ませるためには、中学教員の小学校からの接続の必要感が低い。

【目標及び数値指標】

英語教育に関する小中連携の実施状況の割合（%）

中学校	年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	目標値	85.0	90.0	95.0	100	100
	実績値	86.0	83.7		64.9	

- 【方策】・小中連携の重要性を再確認するため、教育課程研究協議会において、小中連携を共通テーマとした協議を行うことで、中学教員の意識改善を図っていく。
- ・各市町村で、小中連携のための研修会の実施を呼びかける。
- ・県作成の「小学校外国語教育スタートアップガイド」を活用し、訪問指導や研修等で周知徹底を図る。

⑥ 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

- 【現状】・令和4年度新規採用者に占める小学校において国が求める英語力（CEFR B2以上）を有する者の割合は3.4%であった。
- ・義務教育課では、スペシャリスト教員（2年以上のALTの経験を有するネイティブや英語力の高い日本人）をこれまで15人を採用し、そのうち、12人を小学校に専科指導教員として配置している。

【課題】 本県の教員採用試験では一定の英語力を取得している受験者に対して加点をしているが、志願倍率の低迷により、一定の英語力を有する人材の確保が難しい。

【目標及び数値指標】

新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合・人数（上段：%、下段：人）

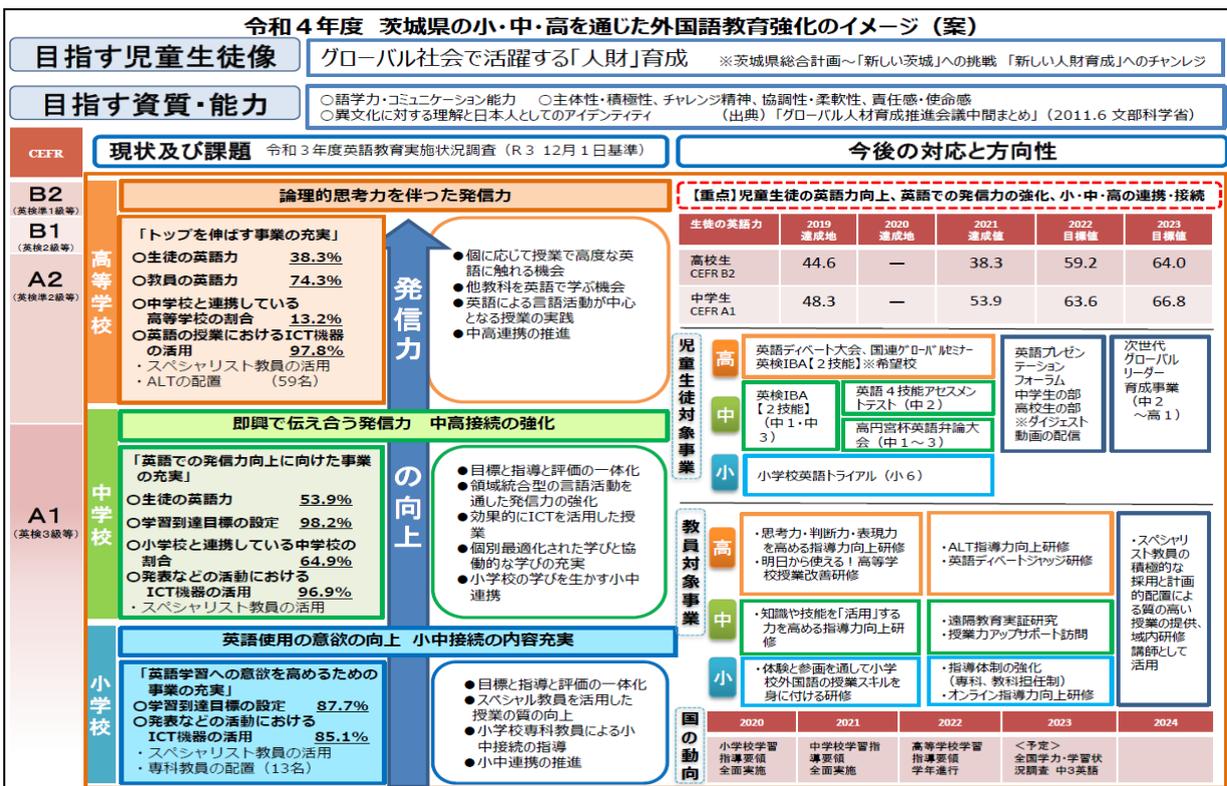
		2020	2021	2022	2023	2024	2025
小学校	目標値	5	10	20	25	40	50
	実績値	3.9	3.4				
	目標値	20	40	81	101	162	202
	実績値	8	7				

※令和2年度採用予定数404人の50%（202人）を基に積算、小数第2位を切捨

- 【方策】・教員採用試験会場を県外にも広げ、教員志望学生の説明会では、英語教員の魅力を伝えるとともに、在学中に英語外部検定試験の資格を取得するよう啓発していく。
- ・スペシャリスト教員を採用し、計画的に、全市町村に配置していく。
- ・教員採用では、教員採用のプラットフォームづくりを強化していくことで、優秀な人材の確保を強化していく。

(2) (1) の目標を達成するための取り組み (施策の全体像と具体的な計画)

令和4年度茨城県の小・中・高を通じた外国語教育強化のイメージ (概要図)



①【小学校】

<児童対象事業>

事業名	小学校英語トライアル (R1～)
目的	小学校卒業段階の児童の英語力の実態を客観的に把握し、それらの結果を踏まえ、各学校における英語教育の指導改善に活かすとともに、目標の設定と英語力向上への意欲付けを図る。
対象	公立小学6年生の全児童 (約24,000人)
内容	・小学校英語トライアル (2技能版) の実施 ・アセスメントの結果を小中学校教員の接続ツールとして活用

<教員対象事業>

事業名①	体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修 (R3～)
目的	小学校の外国語活動・外国語科に関して、体験活動と参画活動のある実践的な研修を行い、授業スキルを身に付けることで、授業力の向上を図る。
対象	小学校教員90名
内容	・文部科学省視学官からの講義等、ワークショップ型研修及び研究協議 ・小中連携を踏まえた実践発表 ・県作成指導資料の普及と活用 (小学校外国語スタートアップガイド vol.1～3)

事業名②	オンラインを活用した指導力向上研修 (R2～) ※先導的なオンライン研修実証研究事業 (国事業) に申請予定
目的	動画を視聴し指導力に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語力と指導力の向上を図る。
対象	小学校専科教員等 (スペシャリスト教員は除く)
内容	・オンデマンド動画を視聴し、指導力向上のためのすぐに授業で実践講座

	・外国人講師とのオンラインによるマンツーマンレッスン	
<b>②【中学校】</b>		
<b>&lt;生徒対象事業&gt;</b>		
事業名①	中学生の英語発信力向上事業 (R2～) <別添1>	
目的	中学生の英語発信力向上に向けて、アセスメントテストの結果を踏まえた授業改善	
対象	公立中学校等2年生 (約25,000人)	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語4技能アセスメントテストの実施</li> <li>・授業力アップサポート訪問 (県内18校程度の中学校への年3回の訪問指導)</li> </ul>	
事業名②	英語アセスメントテスト (R1～)	
目的	中学校卒業段階の生徒の英語力の実態を客観的に把握し、それらの結果を踏まえ、各学校における英語教育の指導改善に活かすとともに、目標の設定と英語力向上への意欲付けを図る。	
対象	公立中学校等の1・3年生	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検IBA(RL版)の実施</li> <li>・アセスメントの結果を踏まえた中学校の授業改善の推進</li> </ul>	
事業名③	高円宮杯全日本英語弁論大会茨城県大会の開催	
目的	生徒のコミュニケーション能力の向上を図る	
対象	県内の公私立中学校等 第1～第3年生 (各校から1名)	
内容	中学生による英語スピーチコンテスト (テーマ自由)	
事業名④	小中学校における遠隔教育実証研究事業 (R2～)	
目的	高度な専門性や優れた指導力をもつスペシャリスト教員を活用した遠隔授業を実施することで、質の高い教育を実現し、児童生徒の学力向上を図る	
対象校	受信校	配信校
水戸地区	笠間市立岩間中学校	笠間市立岩間第三小学校
県北地区	常陸太田市立水府中学校	常陸太田市立瑞竜中学校
鹿行地区	鹿嶋市立鹿島中学校	鹿嶋市立鹿島小学校
県南地区	つくばみらい市立伊奈東中学校	つくばみらい市立伊奈東小学校
県西地区	桜川市立桜川中学校	桜川市立谷貝小学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導と遠隔教育を併せた実証研究 (配信校から受信校へ遠隔授業)</li> <li>・英語専科指導教員 (スペシャリスト教員) による中学生への指導 (小中連携)</li> </ul>	
事業名⑤	学びのイノベーション推進プロジェクト (R3～)	
目的	ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体化に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	
モデル校	(水戸地区) 水戸市立常盤小学校	(県西地区) 下妻市立下妻中学校
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT及びデジタル教科書、デジタルドリル等の効果的に活用した授業づくりのための実証研究</li> </ul>	
<b>&lt;教員対象事業&gt;</b>		
事業名	知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修 (R2～)	
目的	中学校における授業改善に関する講義、演習・研究協議等の研修を通して未来を拓く生徒に求められる「活用」する力について理解するとともに、指導力の向上を図る。	

対象	中学校教員 47 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省調査官からの講義</li> <li>・「活用する力を高めるための授業づくりと評価問題の作成」及び研究協議、小中連携を踏まえた実践発表</li> </ul>
<b>③【中・高等学校生徒対象の事業】</b>	
事業名①	英語プレゼンテーションフォーラムの開催（中・高）（R2～）＜別添2＞
目的	グローバルな視野をもち、他者と協働しながら課題を解決し、自分の意見を英語で発信することができる人財の育成
対象	県内公私立中学生及び高校生
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の部：プレゼンテーションの後に、生徒同士のインタラクション</li> <li>・高校生の部：プレゼンテーションの後に、審査員からのQ&amp;A</li> </ul>
事業名②	次世代グローバルリーダー育成事業（H30～）＜別添3＞
目的	海外の人々とのコミュニケーションをとりながら課題を解決していくための思考力やリーダーシップ、実践力などを育成する
対象	県内在住の中学2年生～高校1年生
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用したトップレベルの英会話学習、集合研修会、海外大学留学生との交流プログラム等を2年間提供、世界で活躍する人材との交流、ワールドスカラーズカップ（WSC）への参加</li> </ul>
<b>④【高等学校】</b>	
<b>&lt;生徒対象事業&gt;</b>	
事業名①	ローズ杯高校生英語ディベート大会（H23～）
目的	実践的な英語コミュニケーション能力を高め、「国際社会で活躍できる人財」の育成
対象	県内高校生
内容	1チーム4人編成で実施する競技ディベート
事業名②	国連グローバルセミナー（H25～）
目的	国際的な視野を広げ国際社会に貢献しようとする態度を育成するとともに、国際社会に向けた生徒の主体的な進路選択を支援
対象	県立高校生 40 名
内容	国連大学（東京）において、SDGs や国際問題に関する講義の受講や国連大学の研修者に向けて自らが探究した内容のプレゼンテーションを実施
事業名③	海外留学生に対する経費支援（H23～）
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校に対する支援金の交付（国委託）</li> <li>②個人に対する支援金の交付（県独自）</li> </ul>
事業名④	外国語指導助手招致事業（S55～）＜別添4＞
目的	ネイティブと実践的な会話ができる機会を追加し、英語で思考・議論できる「グローバル人財」を育成
対象	全県立高等学校等
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートを活用した授業、マンツーマン、少人数での英会話レッスン</li> <li>・専門性をもつALTによる英語以外の教科・課題研究の授業</li> <li>・クラスの副担任として学校行事等での交流等</li> </ul>
<b>&lt;教員対象事業&gt;</b>	
事業名①	思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修（R2～）

目的	新学習指導要領の実施を見据えた学習指導に関する実践発表、思考力・判断力・表現力を高めるための講義・演習・研究協議を通して、評価問題の作成をはじめとする思考力・判断力・表現力を高める指導力の向上を図る。
対象	高等学校教員 15名
内容	・大学教授からの講義 ・実践発表及び研究協議
事業名②	明日から使える！ 高等学校授業改善〔基礎〕研修 (R2～)
目的	新学習指導要領の実施に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善についての基本的な考え方や具体的な方法等についての講義、実践発表、演習・研究協議を通して学び、授業力の向上を図る。
対象	高等学校教員 20名
内容	・大学教授からの講義 ・実践発表及び研究協議
事業名③	ディベートジャッジ研修 (H23～)
目的	ディベート大会において公平な審査を行うために必要な知識とスキルを取得
対象	県内の各高等学校、中等教育学校で受講を希望する英語科教員及び外国語指導助手
内容	ディベートジャッジセミナー、試合解説等
⑤ その他	
教育課程実践検証協力校 (国立教育政策研究所)	
・水戸市立稲荷第一小学校、下妻市立下妻中学校	

## ⑥ 年間事業計画

月	本県等の取組	対象者	外部専門機関等
4月	・県指導主事等研究協議会 (第1回)	指導主事	
	・次世代グローバルリーダー育成事業	中高生	ベネッセコーポレーション
	・スペシャリスト教員研修会	教員 (小中)	
5月	・英語コミュニケーション能力育成事業説明会 (オンライン)	教員 (中)、 指導主事	
	・遠隔教育実証研究プロジェクト会議	指導主事、教員	大学教授
	・学びのイノベーション推進プロジェクト会議	指導主事、教員	大学教授
6月	・中学生の英語発信力向上事業説明会 (兼中学校授業改善研修会)	指導主事 教員 (中)	日本英語検定協会 文部科学省調査官
	・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修 (第1回)	教員 (高)	大学教授
	・授業力アップサポート訪問 (第1回)	教員 (中)	
	・英語プレゼンテーションフォーラム市町村大会	中学生	
7月	・英語プレゼンテーションフォーラム地区大会 (5会場)	中学生	
	・教育課程連絡協議会 (小・中学校外国語科) (5地区)	教員 (小中)	
	・体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修	教員 (小)	文部科学省視学官
	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座 (第1回)	教員 (中)	文部科学省調査官
8月	・英語プレゼンテーションフォーラム県大会	中高生	大学教授、企業
	・明日から使える！ 高等学校授業改善〔基礎〕研修	教員 (高校)	大学教授
	・遠隔教育実証研究プロジェクト会議 (第2回)	指導主事、教員	大学教授

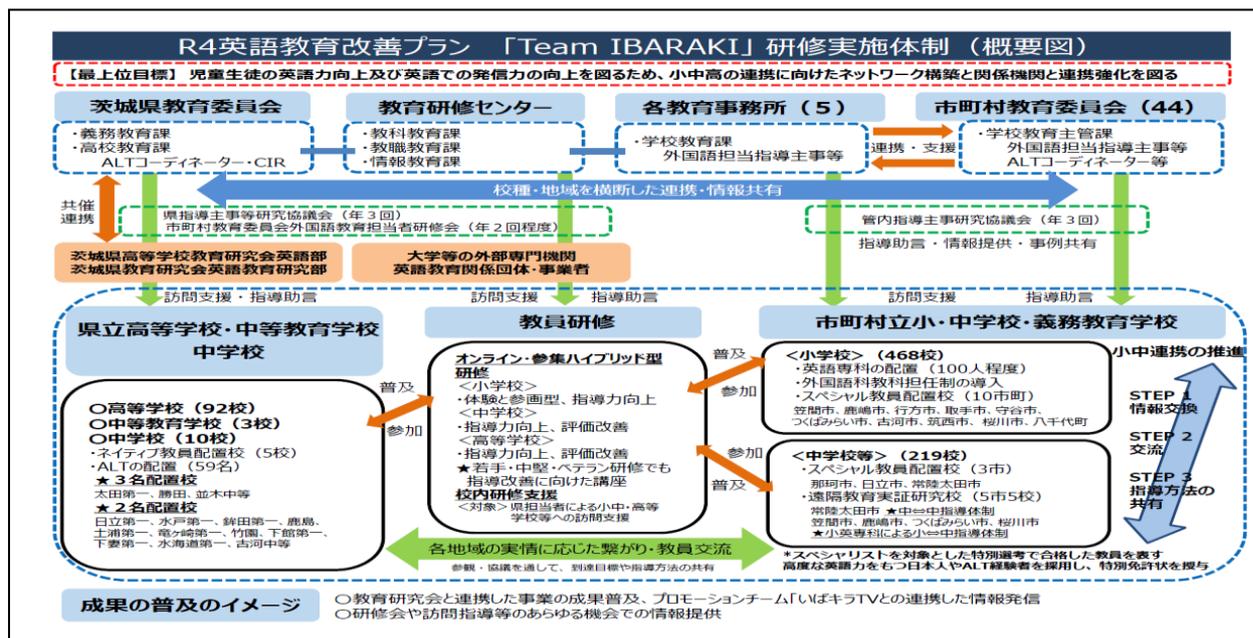
9月	・中学生の英語発信力向上事業（～12月）	小6、中1～3 ※高校は希望校	日本英語検定協会
	・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修（第2回）	教員（高校）	大学教授
	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座（第2回）	教員（小中）	文部科学省調査官
	・ALT 連絡協議会	ALT	
10月	・高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会茨城県大会	中学生	
	・県指導主事等研究協議会（第2回）	指導主事	
	・授業力アップサポート訪問（第2回）	教員（中）	
	・ディベートジャッジ研修	ALT、教員（高校）	
	・国連グローバルセミナー（～3月）	生徒（高校）	
11月	・ALT 指導力等向上研修	ALT、教員	大学教授等
	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座（第3回）	教員（小中）	文部科学省調査官
	・ローズ杯高校生英語ディベート大会	生徒（高校）	
	・遠隔教育実証研究公開授業	教員（中）	
12月	・学びのイノベーション推進プロジェクト授業公開	教員（小中）	
	・授業力アップサポート訪問（第3回）	教員（中）	
1月	・遠隔教育実証研究プロジェクト会議（第3回）	指導主事、教員	大学教授
	・学びのイノベーション推進プロジェクト会議（第2回）		
2月	・県指導主事等研究協議会（第3回）	指導主事	
	・市町村教育委員会外国語教育担当者研修会	指導主事	大学教授
3月	・英語教育改善プラン事業成果報告書（WEB 配信）	指導主事、教員	

【その他の取組】

- ・研修センター：英語教育推進リーダー及びスペシャリスト教員等の積極的活用（研究協力者等）
- ・各市町村教育委員会：スペシャリスト教員を活用した域内での教員への研修体制の強化

(3) (2) を実施する体制の概要

令和4年度茨城県英語教育改善プランの研修実施体制（概要図）



<別添1> 英語プレゼンテーションフォーラム(中学生の部)(概要図)

英語コミュニケーション能力育成事業  
令和4年度英語プレゼンテーションフォーラム(中学校の部)

グローバルな視野をもち、他者と協働しながら課題を解決し、自分の意見を英語で発信することができる人材の育成

求める資質・能力  
語学力、コミュニケーション能力、チームワーク、協調性、柔軟性、異文化理解、日本人のアイデンティティの形成、課題発見・解決能力、チームワーク等  
出典:グローバル人材育成推進会議(2012年6月)

Interaction(やり取り)  
言語活動を通して、豊富な情報や考えなどを整理したり表現したりし合うことによるコミュニケーションを図るための資質・能力を育成する  
授業  
● 異文化理解の視点  
● 異文化理解の視点  
● 異文化理解の視点

Production(発表)  
○ ほとんどの内容を話す機会  
○ 思いやり、聴きだすことについて話す機会  
○ 自分の考えや気持ちを理由とともに伝える機会  
R3 テーマ「私たちがいばらき観光大使」  
「私たちがいばらき観光大使」

事業改善の背景  
アクティビティの育成  
教員研修の充実  
アクティビティの育成  
教員研修の充実

Interactive Teacher Talk  
→ Small Talk  
英語での豊富なインタラクション  
複数單元を通じた単元終末の言語活動の設定  
領域統合型の言語活動の充実

授業改善に向けて  
● Exposure & Experience  
● 生徒が英語に慣れる機会  
● 生徒が英語を用いる経験  
● 多様なコミュニケーションの実践の機会  
● 思考力・判断力・表現力を育成する機会  
● ICTを効果的に活用する機会

Presentation  
● 教員研修的な課題解決型テーマ  
→ 英語をツールとして自分の考えや気持ちを発信  
● 他者のグループとのやり取り(対話の機会)  
● Sharing Time

今後の方向性  
2021-2022 2022-2023 2023年度に向けて  
2024 効果的な指導方法の改善・充実に向けた委員会の設置

<別添2> 中学生の英語発信力向上事業(概要図)

令和4年度中学生の英語発信力向上事業(案)

目的  
中学校の授業を改善し、生徒の英語4技能を総合的に育成することで、英語で発信する力を強化し、グローバル人材の育成を目指します。

本県の現状  
生徒の英語力 CEFR A1レベル相当以上(英検3級相当) 【令和3年度調査結果(調査対象) 調査数】  
R1 CEFR A1レベル 取得者+相当の英語力を有する生徒の割合 48.3% (前年比+5.5) 【全国平均 42.8%】  
R2 アリスメントテスト(英検EBA)の結果 中3の英語力 中3 3年生の英語力(英検3級レベル) 60.9% (前年比+5.7)  
R3 CEFR A1レベル 取得者+相当の英語力を有する生徒の割合 53.9% (前年比+5.6)

成果  
● 生徒の英語力及びCAN-DOリストの設定は着実に上昇 ● 授業でのICT活用: 話すことでの活用割合が全国トップレベル

課題  
● 生徒の英語力: 指標値 CEFR A1レベル 63.6% ※ 具体的な指標値に基づくEPM(Evidence-Based Policy Making)の推進  
● 小中連携型のCAN-DOリストの設定、公表及び達成状況を把握するための調査・能力ベースの学習到達目標の設定  
● アリスメントテストの結果に基づく授業改善(従来の授業デザインからの脱却) ● 教員の英語力、英語での指導力

今後の方向性  
● ICTを活用した授業改善(指導改善報告書)  
● ティーチング(指導)研修等を通じて各事業の再構築  
● 英語教育の質の向上を図るためのICT活用  
● 地域及び各学校の実態に応じた学習到達目標の設定  
● 小中連携型のCAN-DOリストの設定、公表等  
● 目標と指導と評価の一体化を目指した授業デザイン  
● 単元のゴール(単元終末の言語活動)の設定と工夫改善  
● 共通尺原のリスニングテストの実施  
● 中2: 英検EBA(4技能版)の活用  
● 中3: 英検EBA(2技能版)の活用  
● 多様な国出身のALTによるダイバーシティ教育  
● 多様な国出身のALTによるダイバーシティ教育  
● 多様な国出身のALTによるダイバーシティ教育  
● 多様な国出身のALTによるダイバーシティ教育  
● 多様な国出身のALTによるダイバーシティ教育

<別添3> 次世代グローバルリーダー育成事業(概要図)

次世代グローバルリーダー育成事業 令和4年度

目的  
海外の人々とコミュニケーションをとりながら、課題を解決していくための思考力やリーダーシップ等を育成する。

事業概要  
学習意欲の高い中高生を対象に、英語をツールとして活用しながら、オンライン英語講座、集合研修会、海外大学留学生との交流プログラム等を2年間提供する。

1. これまでの成果  
● ワールドスカルズカップ決勝大会に選出、ゴールメダル等を複数獲得  
● 国際学生サミットに日本代表として参加し、グローバルリーダーシップアワード受賞  
● クラウドファンディングを活用し、会社を起業  
● ハーバード大学や東京大学等に合格

2. 課題  
● 自分の考えを相手に伝えるための構想力や発信力が必要である。  
● 国際的な話題について討論するため、社会経済、環境、科学や歴史、文学、芸術などのより専門的な幅広い知識が必要である。

3. 事業内容

対象	・ 県内に在住する中学2年生～高校1年生 ・ 4技能の習得、またはディベート形式(週2)
個別研修	・ プレゼン構想力トレーニング(月2)
グループ	・ 事前課題+ディスカッション(週1)
集合研修会	・ 世界で活躍する人材との交流 ・ 模擬国連会議演習、海外大学留学生との交流 ・ 国際的な話題についての専門性を高める研修(オーストラリアの大学・大使館等) ・ ワールドスカルズカップ等への参加
英語力測定	・ 4技能試験(TOEFLのオンライン模試)
補助	・ WSC世界大会(約10万×21人) ・ WSC決勝大会(約20万×12人)

価値の創出  
● 世界で活躍する人材との交流  
● 海外大会(W.S.C)等への参加  
● 模擬国連会議演習等

異文化理解  
● 定期研修会  
● イングリッシュキャンプ  
● 海外大学留学生との交流  
● 大学等の専門家による研修

高い英語力  
● オンライン英語講座(個人、グループ)  
● プレゼン構想力トレーニング

※WSC...ワールドスカルズカップ  
急速なグローバル化の進展により、国際社会で活躍できる人材の育成が求められている。

<別添4> 外国語指導助手招致事業(概要図)

R4年度外国語指導助手招致事業 ～ALTの新たな活用方法～

【目標】英語で思考・議論できる資質・能力 → 国際社会で活躍できる人材の育成

ALTの役割  
(これまでは)日本人教員のアシスタント  
(今は) ● 授業の中心となるファシリテーター  
● 学校生活のあらゆる場面で活用  
● 日常的に英語で思考・議論する機会創出

ALTの新たな活用場面  
① 英語で思考・議論するためのディベート指導  
② 立論、反駁、情報収集の指導、ジャッジフィードバック  
③ 英語以外の授業、学校行事等への参加  
④ 授業準備や部活動を通して実践的コミュニケーション  
⑤ 多様な国出身のALTによるダイバーシティ教育  
⑥ SDGsについて様々な視点から生徒と議論  
⑦ 少人数での英会話レッスン  
⑧ インタビューテスト、英検、TOEFLに向けた指導  
⑨ English Lunch: 生徒とALTが昼食をとりながら英語で会話  
⑩ 探究活動を英語でサポート  
⑪ 調査・分析する方法を英語で指導、論文作成・発表指導  
⑫ クラスの副担任  
⑬ 学級活動(朝のSHR等)を英語で実施、異文化理解促進

ALTの配置計画  
● すべての県立高校・中等教育学校に派遣  
● ALT拠点校42校に59名を配置  
● その他の学校(グループ校)には拠点校から週1日以上派遣  
● ALT重点校14校に複数名配置  
● ALT重点校: 中高一貫教育校(日立、太田、水戸、前橋、宇都宮、足利、松本、上野、龍ヶ崎、下館、下妻、水海道、笠井、古河、竹園)

年度	R1	R2	R3	R4
人数	40人	53人	59人	64人

県内のALTの増員状況

① 国連大学グローバルセミナーの講師  
② SDGsに関する講義、ワークショップ  
③ ラーニングメンターとして議論やプレゼンテーションの指導  
④ 高校生英語ディベート大会(ローズ杯)の審査員  
⑤ 日本人教師とともにジャッジ研修を受講  
⑥ ディベート大会のジャッジの経験や指導の授業の指導に還元

茨城県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	93.4	95	76	100	100	100	100	100	100	
		公表(%)	27.9	30	19	23.1	40	45	41.8	50		
		達成状況の把握(%)	40.2	45	35.5	38.8	50	50	54.7	50		
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	39.4	40	37.5	38.8	45	47.5	45.51	50			
	③パフォーマンステストの実施状況											
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	159	160	150	223	180	190	314		
			コミュニケーション英語Ⅱ	116	120	154	199	140	145	257	150	
			コミュニケーション英語Ⅲ	45	50	50	65	60	65	93	70	
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅰ	86	90	46	119	90	95	116		
			英語表現Ⅱ	30	30	26	55	40	45	65	50	
			英語表現Ⅲ	30	30	26	55	40	45	65	50	
	新課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	55	60	132	139	70	75	130		
			コミュニケーション英語Ⅱ	69	70	107	119	80	85	116	90	
			コミュニケーション英語Ⅲ	15	20	71	109	30	35	69	40	
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅰ	100	105	136	213	115	120	151		
			英語表現Ⅱ	88	90	129	210	100	105	114	110	
			英語表現Ⅲ								200	
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	42	41.7	44	37	46	48	38.3	50			
	⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	62	66	73.2	77	75	75	74.3	75			
	⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	36.2	41.1	41.1	44.6	49.6	54.4	38.3	59.2			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	97	100	96	100	100	98.2	100	
		公表(%)	60	18	70	15.8	80	90	39.4	100	
		達成状況の把握(%)	60	55	70	46.6	80	90	60.1	100	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	90	78	95	83.2	96	98	73.1	100		
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	6	5	6	6	6	6	5	6	
		ライティングテスト(回)	5	4	5	4	5	5	4	5	
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	90	95	87	98	99	81.8	100		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	28.8	57	28.8	60	60	28.1	60			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	48.6	41.5	54	48.3	57.2	60.4	53.9	63.6			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				30		50	87.7	80	
		公表(%)				20		30	20.9	40	
		達成状況の把握(%)				30		40	64.9	50	

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①	英語教育に関する小中連携の実施状況(%)	85	86	90	83.7	95	97	64.9	100		
	②	英語の授業におけるICTの活用状況:生徒がパソコン等を用いて発表や話すことやり取りをする活動(%)			75	71.9	80	90	96.9	100		